

# 視察レポート

## 先進地に学ぶ、価値ある視察

所掌事務の調査・研究のため、総務・文教福祉・産業建設常任委員会合同による行政視察研修を実施しました。

### 北海道 札幌市 7月2日

#### 児童生徒のための統合を考える 災害に備え、議会が動ける体制へ

○学校規模の適正化  
適正規模は、クラス替えができる人数  
札幌市では、児童生徒数はピーク時の60%程度(約13万人)となっており、都心部・郊外団地などで児童・生徒の人数が減少している。  
そして、平成11年に学校規模適正規模検討懇談会から、「小学校の適正規模は18〜24学級、少なくとも12学級以上」「12学級を下回る学校が隣接し、施設老朽化が進む都心部は、速やかに学校規模の適正化を図る必要がある」との指針が示された。

#### 小規模校の解消を急ぐ

そこで、ドーナツ化現象で児童数が減った都心部4校を統合し、平成16年

に「資生館小学校」を開校した。

開校までに、保護者や地域住民への説明会は、参加者がいなくなるまで続けられ、70回を数えたという。  
今後、適正化の指針を見直しながら、小規模校の解消のため、優先順位を付けて統合を図っていくとの説明であった。

#### ○議会の大規模災害対応

##### 非常時の情報手段等が課題

札幌市議会は、大きな災害が発生した際の市議会としての対応ルールを定め、平成29年4月から運用を開始。  
まず大規模災害が発生後、札幌市議会災害対策支援本部(以下本部)を設置し、災害対応の指揮にあたる。  
議員個人の災害時の対応ルールは以

下のようになる。

#### 主なルール

- ・議員は自ら本部へ安否連絡をする
- ・議員は地域等の共助の取組みへ協力
- ・議員は被災地・避難所で集めた情報や要望事項などを本部へ提供 等
- 課題としては、災害により電話等が使えない場合の連絡方法の確保や、議員からの情報や要望事項を、どう混乱なく市側へ提供するかなど。



児童・生徒の減少への対策は

### 北海道 北広島市 7月4日

#### 子育て世代を呼び込む目玉事業 市のPRは、インターネットを使っ て!

このほか小中一貫教育を進めたり、子育て支援施設を作るなど力を入れている。



新庁舎1階に、子育て支援施設

#### ○シティーセールス事業

##### 知名度向上の次は、ブランド力強化を

北広島市は、住みよさランキングでは北海道内6年連続1位を誇っているが、全国的な知名度が低いことが悩みどころであった。  
シティーセールス事業は、元々市内にある魅力を発信することを重視。テレビCMには力を入れず、WEB広告やインターネットでの動画公開などにより、口コミでの宣伝効果を狙っている。

例として、1分程度の市紹介動画を作成しYouTubeにて公開。再生回数は合計5万回を超え、各種メディアに取り上げられてPR効果が高まっている。



市の魅力をWEBでPRする

### 北海道 石狩市 7月3日

#### ペーパーレス化は、議会の効率化のために 市民が望む活気ある図書館とは?

#### ○議会のペーパーレス化

##### 紙資料を無くした効果は大きい

これまで議員へ配付していた議案書や予算・決算書などの紙資料を無くし、代わりに各議員へパソコンを配付して資料を電子データ(PDFファイル)で見られるようにした。

ペーパーレス化による新たな経費は、パソコン購入費約17万円など合計約72万円。一方、削減経費は、印刷費や人件費で約138万円などで合計約198万円(年間)。

石狩市議会の例では、ペーパーレス化によるコスト削減効果は大きいことが分かった。また、議員の反応としては、概ね好評で「過去の資料が見れるので、審査しやすい」等の意見が上がったという。

#### ○石狩市市民図書館

##### 図書館の中に街をつくる

市制記念事業として平成12年6月に市民図書館がオープン。  
図書館の図書館の特徴として

は、「図書館の中に街をつくる」をコンセプトに館内に喫茶コーナーや地元農産物などの直売コーナー等を設置し、市民



ボランティアが活動する部屋



布絵本は日本一

が利用し易くなっている。  
また、施設内に段差がなく車椅子での利用が容易である。  
本については、30万冊の蔵書を誇り、市外の方でも貸出が可能であり、貸出冊数に上限を設けていない。  
本の修理もボランティア

図書館内ではボランティアの方が多く活躍している。約70人のボランティア



児童書コーナーも充実

職員の話では、市民の要望により実現した図書館であり、自分たちで地域を盛り上げて行こうという意識が高いのではとのことであった。